

# 長崎の林業

小曾根星堂書



第62回長崎県乾しいたけ品評会（対馬市）

7

## 目次

● 林政だより	森林所有者は届出・許可が必要です！ ～森林を取得したとき、伐採するとき～ ..... 2～3
● 特集記事	人と自然界の「共生」を考える 諫早市鳥獣処理加工販売組合「野生のおくりびと」 金谷春さん ..... 4～5
● 林業普及だより	長崎県の林業が抱える課題について高校生が考える！ ～長崎北高校「ふるさと教育」～ ..... 6
● 地方だより・壱岐	モクヨンビル完成 ～壱岐市に木造4階建てのビルが誕生！～ ..... 7
● 地方だより・対馬	第62回長崎県乾しいたけ品評会開催 ..... 8
● 林業団体情報	伐木のプロを目指せ！（安全指導技術者の育成に向けて） ..... 9
● センターだより	下刈りの回数を減らせる！？ ..... 10
● イベント情報・県北	「えぼし木工体験教室」が開催されます！ ..... 11
● 長崎の山と森	樹木医巨樹さるく（山王神社のクスノキ、古賀のゴヨウマツ） ..... 12

「長崎の林業」は、ながさき森林環境税を活用して発行しています。

ながさき森林環境税



2023 No.813

木づかい推進で地球温暖化を防止しよう！

ながさき森林環境税の取組についてはこちら→



森林ボランティアに興味のある方はこちら→



FREE

ご自由にお持ち下さい。  
「長崎の林業」はこちらからもご覧いただけます→



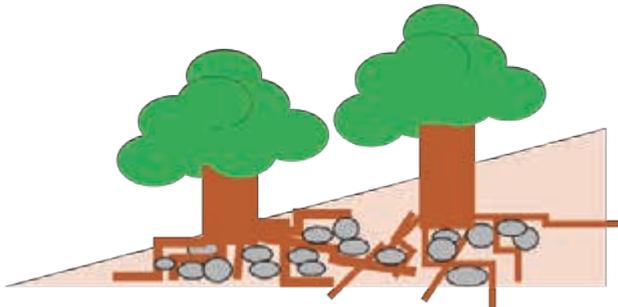
## 林政だより

# 森林所有者は届出・許可が必要です！ ～森林を取得したとき、伐採するとき～

### 森林の公益的機能発揮への期待

森林は、土砂災害の防止機能、生態系の保全機能など、さまざまな公益的機能を有していますが、適切な管理を行わないと、これらの機能は失われてしまいます。

土砂災害の防止機能



木の根が地面をしっかりとおさえてくれるので土砂くずれも発生しにくくなっています。

森林の機能を継続的に発揮させるためには、県や市町は森林の現況や転用の状況を把握しておくことが重要となっています。そのため、森林所有者には、①森林を取得したときや②森林を伐採するときに届出をしてもらうこととなっています。

届出の対象となる森林は、地域森林計画で定める民有林です。対象となる森林であるかの確認は、市町や県の各振興局の林業担当課、県庁林政課で行うことができます。

### ①森林を取得したとき

森林の土地を取得した場合は、個人や法人にかかわらず、取得後90日までに「森林の土地の所有者届出」を市町へ提出する必要があります（森林法第10条の7の2）。取得は売買によるもののほか、相続、贈与によるものも対象となります。相続の場合は相続人が明確に決まっていなくても、法定相続人（相続する権利がある人）の共有物として届出を行う必要があります。

### ②森林を伐採するとき

自分が所有する森林を伐採する場合であっても事前の届出や許可が必要です。

また、森林の種類（普通林、保安林など）や伐採方法（間伐、主伐など）などによっても届出等の提出期限や提出先が異なりますので、次のページの図を参考に確実な手続きをお願いします。



### ②-1 普通林の場合（保安林、森林経営計画にかかる伐採、1haを超える開発等は除く）

伐採をしようとする森林が所在する市町へ、伐採を始める90日前から30日前までに、届け出る必要があります。届出は、伐採する人と森林の所有者が異なる場合は、両者が連名で届け出る必要があります。

### ②-2 保安林の場合

保安林を伐採する場合は、県もしくは市町の許可等が必要です。伐採方法等によって、提出先などが異なりますので、お問い合わせください。

また、保安林であるかは、長崎県のホームページ「保安林の地番確認」により確認できます。

### ②-3 森林経営計画に係る伐採の場合

森林経営計画の認定を受けている森林所有者又は経営の委託を受けた者が、計画に基づいた伐採等が終わった日から30日以内に、その計画を認定した、市町、県に届出をする必要があります。

なお、当初は林地開発の対象となる面積以下であるということ、伐採届を提出していても、その後、変更により開発面積の合計が林地開発の対象となる面積を超えると、林地開発の許可が必要となります。

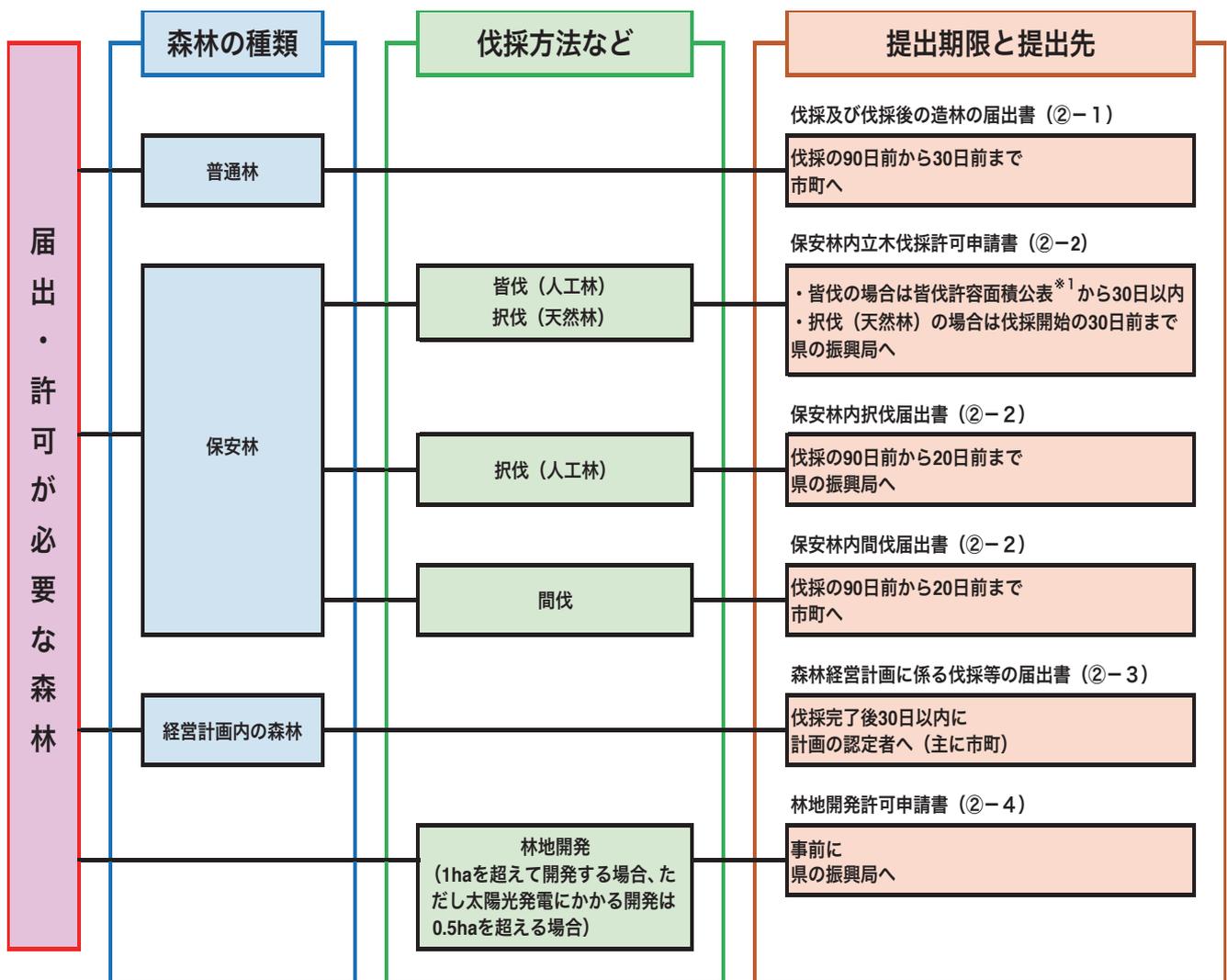
### ②-4 林地開発の場合

森林を1haを超えて転用する場合は、県知事の許可が必要です。事前に県の振興局にご相談ください。ただし、太陽光発電設備を設置する場合に限り、開発する森林面積が0.5haを超えると、都道府県知事の許可が必要になります。

### 確実な届出等による適切な森林管理

それぞれの届出には、届出書のほかにも書類が必要なことがあります。事前に市町や県にご確認ください。確実な届出等の提出が、適切な森林管理につながっていきますので、忘れずに手続きを行いましょう。

(林政課 森林管理班)



\*1 保安林の皆伐許可面積の公表は、2,6,9,12月にあります。

図 森林を伐採するときのフロー図

【特集記事】

# 人と自然界の「共生」を考える

諫早市鳥獣処理加工販売組合

「野生のおくりびと」 金谷 春さん

諫早市鳥獣処理加工販売組合部長 かなや はる 金谷 春さん

雄大な富士山の裾野に広がる「日本一富士山に近いまち」として知られる山梨県富士吉田市。ここは、市街地全体が海拔650mを超える場所に位置する高山都市です。

今回は、山々の伏流水に恵まれた自然豊かな環境で生まれ育ち、四季折々の美しさを見せる富士山と共に過ごした「若き猟友会のホープ」金谷春さんに話を伺いました。

## 夢は「自然と関わる仕事」

23年前に山梨県から移住し、現在は諫早市鳥獣処理加工販売組合で部長を務める金谷さん。そのお名前の通り、春の陽差しのようで温かな雰囲気印象的な方です。普段は3人のお子さんを育てるお母さんですが、時に猟師、時に食肉加工所部長、鳥獣管理士、愛玩動物飼養管理士、山羊飼、森林ボランティア等々、ここには書ききれない程たくさんの顔を持っています。小学生の頃に経験した、経済と交通網の発展により変わりゆく故郷の姿が忘れられず、いつしか自然と正しく関わる術を考えるようになりまし

た。林業が盛んな山梨県では、間伐・植林ボランティアや林業イベントなどが盛んです。地元就職後、金谷さんも時間を見つけてはこれらに参加し、山師さんと山を歩いていたそうです。長崎に移住後、新規就農研修を受けた際、本県の有害鳥獣問題に触れた事をきっかけに、狩猟免許を取得。小さい頃に思い描いていた「自然と関わる」仕事に就き、日々学びを深め、人と野生とのより良い共生の実現に向け活躍の場を広げています。



(左) 加工所での解体作業の様子

(右) 狩猟の腕を磨くクレ射撃の練習風景

## お師匠さんに学ぶ狩猟の極意

5月某日、諫早市多良見町の竹林に有害鳥獣駆除として猪の罠を仕掛けるという事で同行しました。この日は、「狩猟のお師匠さ

ん」と慕う多良見猟友会の田崎美貴男さん<sup>たさき みきお</sup>と共に山に入ります。人の気配を残さないよう細心の注意を払い、猪の痕跡を一つ一つ教わりながら罠を仕掛ける場所をピンポイントで見定める。獣が生きる現場で命と対峙するお二人の姿は真剣そのものでした。



(左) くくり罠のばねの調整を教わる金谷さん  
(右) 罠のワイヤーを括る木を見極める様子

この日仕掛けた罠は2か所。その翌朝1頭のイノシシが罠に掛かっていました。45kgを超える雌の個体を慣れた手つきで竹林から運び出す金谷さん。狩猟のノウハウを学ぶのはもちろんのこと、お師匠さんとの山歩きは毎回、自然界の学びを様々な角度から習得出来て楽しいと話されました。

## 「野生のおくりびと」として

有害鳥獣対策における三本柱として「防護」「棲み分け」「捕獲」がありますが、上記に記した罠はここで言う「捕獲」です。駆除としての捕獲と、美味しく食べるための狩猟はそもそもの目的が違います。双方命を奪うことに違いありませんが、猟師として、また有害鳥獣駆除従事者としての観点から見ると「命との向き合い方」の違いに葛藤を感じることも多いと言います。猟で初めて猪を撃った瞬間、その命と繋がった感覚を覚えたそう。野生と一体化した空間で、相対する命との絆が生まれた経験を忘れずにいたい、どちらの顔も持っているからこそ、有害鳥獣駆除として職務を果たすだけで終わることなく、野生の世界に入りその命を頂く事に感謝したいと話します。共生の道を考える機会を大切に、成長していけたらと

話す優しく穏やかな表情が印象的でした。

## 次世代へ伝える「自然との共生」

諫早市鳥獣処理加工販売組合は市内5つの猟友会が結束し、鳥獣被害の防止とジビエ普及を目的として設立されました。組合長の永尾洋一さん<sup>ながお よういち</sup>も尊敬する「お師匠さん」の一人。自身が経営される飲食店では、旬のジビエを提供しており、まかない飯で頂いた「特製猪カレー」は言うまでもなく絶品でした。「はじめてジビエ」というブランド名で供される良質な肉には、全国に固定客がいます。佐賀県でオリーブ園を営む太田さんもその一人で、燻製加工販売の材料が九州内どこを探しても入手出来ず困っていた時に会って以来のお付き合い。品質の良さと金谷さんの若き行動力と宣伝力を武器に、全国で評判の加工販売所になるよう応援したいと話されました。



特製猪カレー



(左) 参加者に罠の説明をする金谷さん  
(右) 色とりどりの猪革を手取る子どもたち

その志に共感した仲間も増えました。諫早発ジビエが食文化のひとつとなるよう始動した「イサハヤジビエ料理研究部」、昨年は地元の革職人さんと「いさはやイノシシlabo」を立ち上げワークショップを開催。多くの親子連れが諫早育ちの猪革でレザークラフトを楽しみました。様々な活動を通し、人と自然の共生を考えるきっかけ作りに躍進する金谷さん。今後の活躍が楽しみです。

林業普及だより

# 長崎県の林業が抱える課題について高校生が考える！ ～長崎北高校「ふるさと教育」～



林業の仕事について紹介



ドローンデモ飛行の様子

## 「ふるさと教育」とは

長崎県立長崎北高等学校では、高校独自の探究活動の一環として、長崎県内の事業所や企業が抱える課題について、職員による講話をもとに、生徒たちが今後取り組む課題研究活動のテーマを設定し、課題解決に向けて考える取り組みである「ふるさと教育」プログラムが実施されています。

長崎県の林業行政においては、充実した森林資源を適切に循環活用していくためにも、担い手の確保を重要課題としており、県内の高校生への林業学習にも取り組んでおります。

今回、長崎北高校一年生の「ふるさと教育」の授業において、林業普及職員が長崎県の森林や林業の仕事について紹介し、林業が抱える課題を生徒たちに提示し、課題解決に向けて考えていただく取り組みを実施しました。

## 森林・林業を学ぶ

1回目の講演では、水源かん養や土砂災害防止などの森林の働き、高性能林業機械を使用した森林整備の紹介など森林・林業の概要について説明を行いました。また、セルロースナノファイバーを活用した車や近代的な木造建築物など林業イノベーションや林業

とSDGsとの関係等について紹介しました。

2回目の講演では、前回の内容を深掘りし、林業が抱える課題として、「林業従事者減少に対する従事者の確保」を生徒たちに提示し、課題解決に向けて考えていただきました。また、ICTを活用したスマート林業の事例紹介として、ドローンのデモ飛行やドローンで撮影した航空写真や作成したオルソ画像、レーザ測量解析の紹介を行いました。生徒たちにとってはあまり聞き慣れない森林・林業の話ではありましたが、熱心に耳を傾けており、先端技術であるドローンに対して興味津々の様子でした。

## 課題解決に向けて取り組む

当活動を通して、高校生に向けて長崎県の森林や林業の概要と現状について紹介しました。7月開催予定の3回目の講演では、提示した課題について、高校生の視点から課題解決の糸口となる様々な発想や提案を期待します。今後も若い世代に対しての林業教育を実践し、魅力のある林業を普及員として継続的に紹介していきます。

(県央振興局 林業課普及班)

地方だより

## モクヨンビル完成 ～壱岐市に木造4階建てのビルが誕生！～



### はじめに

今年1月に壱岐市郷ノ浦町に、4階建て木造ビル「睦モクヨンビル」が完成し、令和5年4月2日から1階の「D・Dカフェ」がオープンしました。建物内は1階から4階までが吹き抜けになっており、開放的な空間になっています。カフェ内には、アンティーク家具やインテリアが飾られており、木造ならではの温もりとマッチして落ち着いた雰囲気となっています。ほかにも、子供も楽しめるようにと設置されている、畳で絵本が読めるスペースは子供連れの方に好評だそうです。カフェ以外にも2階は宿泊施設、3階はコワーキングスペース、4階はワーケーションルームとさまざまな利用が可能な充実した施設となっています。

### 島内初のエリアブランド

「睦モクヨンビル」の近隣には、源泉かけ流しの「いき湯川温泉」、壱岐牛を堪能できる「壱岐牛・和牛 弦」、古民家で壱岐の郷土料理を楽しむ「壱州茶屋」など多くの店舗が集まっており、そのエリア帯を観光地として「梅坂ふるしき」という名称でエリアブランド化されています。名称の由来は、ビルが建っている地

域の梅坂という字名から来ており、ふるしきは、エリア帯のさまざまな施設や人々を繋ぎ包み込むことを期待してつけられたそうです。食事に温泉、宿泊など、ここ「梅坂ふるしき」で満喫することができます。

### モクヨンナイト

「睦モクヨンビル」では、毎月第4木曜日の夜に「モクヨンナイト」というイベントが開催されています。「モクヨンナイト」は、壱岐島内の社交の場として、異業種の方々が情報交換や新しい発想の起点となる「出会いと対話の場」として開催されています。今後、この「睦モクヨンビル」が中心となり壱岐島全体の地域活性化にも繋がっていくのではないかと思います。壱岐にお越しの際は、ぜひ足をお運びください。

### 睦モクヨンビル D・D café

住所：長崎県壱岐市郷ノ浦町片原触407-1  
営業時間：10:00～18:00  
定休日：水・木曜日

(壱岐振興局 農林整備課)

地方だより

# 第62回 長崎県乾しいたけ品評会 開催



品評会の様子(左:授賞式、右:展示ブース)



緒方 公洋 氏

## はじめに

5月20日(土)に長崎県<sup>ほし</sup>乾しいたけ品評会が開催されました。今回で62回目の開催となった本品評会は、対馬の特産品の一つである原木乾しいたけの需要拡大と生産技術の更なる向上のために毎年開催されています。

## 審査会の実施

品評会の開催に先立って、5月10日(水)に審査会を行いました。審査部門は4銘柄(花どんこ・どんこ・香信厚肉<sup>こうしんあつにく</sup>・香信中肉<sup>こうしんちゅうにく</sup>)、2区分(グラム物:重さ750g以上・箱物:大箱規格箱に満杯詰め)があり、形状や色、大きさ、香り、乾燥具合等の項目について審査されます。今回は、箱物13点、グラム物124点の計137点、その他ジャンボしいたけ10点、名人の花どんこ箱物1点が出品されました。



審査会の様子(左:グラム物、右:箱物)

審査の結果、緒方公洋さんの香信厚肉・箱物が農林水産大臣賞を受賞しました。通算9回目の受賞となった緒方さんの品物は、品柄が揃っており、色つや、巻き込みやボリューム感、香り等、最も優秀と評価されました。

その他の出品者の方についても、秋子・春子の時期の少雨などの影響で散水管理や品質管理に苦勞した年となりましたが、そのような条件の中でも質の高い品物が出品されており、日々の努力と高い技術力が伺えました。

特賞受賞者一覧

区分	氏名	部門	
		銘柄	区分
農林水産大臣賞	緒方 公洋	香信厚肉	箱物
林野庁長官賞	原野 貢	どんこ	箱物
	宮原 安典	花どんこ	グラム物
長崎県知事賞	原野 貢	香信厚肉	箱物
	内山 文男	香信中肉	箱物
	大石 勝彦	どんこ	グラム物
	春日亀 隆義	香信厚肉	グラム物
	内山 文男	香信中肉	グラム物

どんこんならんジャンボしいたけグランプリ

長崎県議会議長賞	原田 大基	最優秀賞 金賞
----------	-------	---------

## 品評会の開催

品評会当日は、農林水産大臣賞をはじめとする各賞の授賞式や、出品された乾しいたけの展示などが行われました。厳選された高品質の乾しいたけが展示されている光景は圧巻で、会場を訪れた多くの方がご覧になっていました。

## おわりに

近年は気候変動や買取価格の低下など生産者にとって厳しい状況が続いています。そのような状況の中でこの品評会を通して、多くの生産者の方の生産意欲の向上に繋がることを期待します。

(対馬振興局 林業課)

林業団体情報

# 伐木のプロを目指せ！（安全指導技術者の育成に向けて）



水平切り



斜め切り

## はじめに

一般社団法人長崎県林業協会は、長崎県からの受託事業として新規雇用拡大、林業技術者の総合的育成、労働環境改善対策などを図るため、各種研修会等を実施しています。今回は、林業現場で働く作業員に伐倒時の指導が的確にできる技術者を育成する取組について紹介します。

## 俺にまかせろ！

林業での労働災害は、伐倒時に多発しており、伐倒方向を決定する受け口や追い口をチェーンソーによる精度の高い切込みができていないことが一因となっています。

このことから、伐倒技術を現場作業員に教授できる「安全指導技術者」を育成し、労働災害の撲滅を図ることを目的として令和4年度から取組を始めました。

具体的には、本会が令和4年度に導入した「伐木練習機」(森林の現場環境を再現するため0°から25°まで傾斜可能)に設置した丸太を利用して、水平切り、斜め切り等について反復練習を行い、狙った方向に確実に伐倒できる精度の高い「受け口」「追い口」を作ることを目指します。

令和4年度は4名の受講があり、それぞれの事業体において、身に付けた技術で指導に当たられています。



精度の高い受け口作成

## 終わりに

全ての産業に「安全」は最優先です。特に林業では、チェーンソーなどの刃物を使用し、重くて長い立木を伐倒することから危険が伴い、かけがえのない命が失われることもあります。

伐倒時の労働災害の撲滅を目指す取組の一例を紹介しましたが、本年度以降も継続して実施していきます。

なお、伐木練習機は本会でリースも行っていきますのでご利用の際にはご連絡ください。

(一社) 長崎県林業協会の  
HPはこちら ⇒



( (一社) 長崎県林業協会 )

## 下刈りの回数を減らせる!?

### はじめに

主伐後に再造林した植栽木を健全に成長させるためには、成長を阻害する雑草木の下刈りが重要です。下刈りは、雑草木が成長する夏季に行いますが、炎天下での過酷な作業環境や、担い手不足が課題となっており、事業者の負担軽減に向けて省力化が求められています。

### 特定母樹について

成長が早く、花粉が少ないといった特性の基準を満たした品種を特定母樹といい、その苗木は、優れた成長性から下刈りが不要となる高さまで早く成長し、下刈り回数を削減させる効果が期待されています。当センターでは、令和元年3月に特定母樹由来の苗木を植栽し、4年間の品種別初期成長を調査しました。

### 調査結果

本県で木本類の多い植栽地の雑草木に影響されない高さの基準は250cmでした。概ね250cmを超え5年目の下刈りを省略できると予測される特定母樹は、「県西臼杵4号」「県始良20号」「県児湯2号」「高岡署1号」の4品種でした（表1）。草本類が多い場合の影響されない高さは150~200cmで、このような植栽地は、3年目、4年目の下刈りを省略できる可能性があります。今後は県内で植栽例のない品種についても追加で調査を行う予定にしています。

### おわりに

下刈り等適切な保育作業は、次の森林を育てるために重要です。長崎県の林業が「伐る」「植える」「育てる」の循環産業としてさらに発展するように取り組んでいきます。

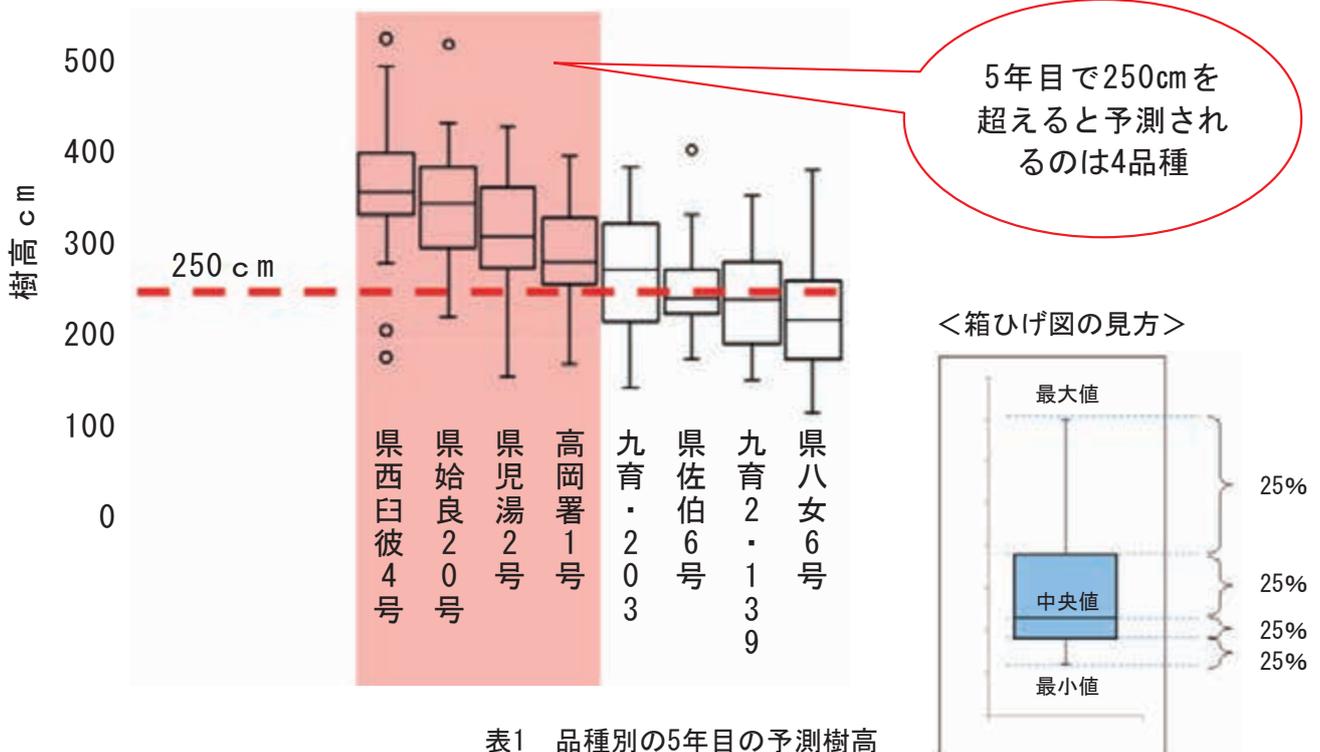


表1 品種別の5年目の予測樹高

イベント情報

# 「えぼし木工体験教室」が開催されます！

令和5年7月29日（土）佐世保市「えぼしスポーツの里」で佐世保林業研究会の会長 岡 幸夫さんによる「えぼし木工体験教室」が開催される予定です。

この木工体験教室は、子供たちの夏休みの活動（課題制作）として毎年申込者が多く、大変人気となっています。

昨年は参加いただいた親子約30名に「花のプランターカバー」の作成を体験してもらいましたが、今年は「巣箱」の作成体験が予定されています。



（佐世保林業研究会 会長 岡 幸夫さん）



申込方法等については「えぼしスポーツの里」のホームページで後ほど公開されますので、是非、夏休みにご家族で参加されてみてはいかがでしょうか。

岡さんが開く木工体験教室をきっかけに子供たちが木や森林について興味をもってもらえたらと思います。

（県北振興局 林業課）

## 伊万里木材市況

### 【ヒノキ】

令和5年6月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	16～18	直	22,900	普通	普通	少ない
	16～18	小曲り	21,800	普通	普通	少ない
	20～22	直	21,300	普通	普通	少ない
	20～22	小曲り	19,700	普通	普通	少ない
	24～28	直・小曲り	20,000 ～18,000	少ない	少ない	少ない

### 【スギ】

令和5年6月現在

長さ	径級 cm	等級	高値 (円/㎡)	現在出荷量	現在引合	需要見通
4m	18～22	直	15,000	少ない	普通	普通
	16～22	小曲り	13,000	少ない	普通	普通
	24～28	直	15,000	少ない	普通	普通
	24～28	小曲り	13,000	少ない	普通	普通

※情報・お問い合わせは、伊万里木材市場 電話 0955-20-2183 まで

長崎の山と森 樹木医巨樹さるく

# 山王神社のクスノキ、古賀のゴヨウマツ

## 山王神社のクスノキ

1945年8月9日、長崎に原子爆弾が投下され、爆心地から約800mに位置している山王神社も大きな被害を受けました。このクスノキも枝や葉を吹き飛ばされ、まるで枯れ木のようでした。

しかし、被爆から約2か月後には新芽が吹き、数年後には葉の生い茂る樹へと回復しました。家族や友を失い、住む場所もままならなかった地域の人々は、このクスノキの生命力に大いに勇気づけられたといいます。2本とも主幹の上部を欠きながらも、大樹冠を形成し、被爆の生き証人と後世に残す樹木としての意義深いものがあります。



被爆当時の山王神社のクスノキ  
はやししげお  
(林 重男氏撮影／山王神社所蔵)

幹の内部には原爆による被害や樹齢による腐朽がみられ、それにより場所によっては幹の半分程度の空洞があります。2006年には台風により大きな枝が幹の部分から折れてしまうほどの被害を受けましたが、山王神社や氏子を中心とした地域の人たちの支えによって、今もおう盛な樹勢を維持し、静かにこの地域を見守っています。

所在地 長崎市坂本町2丁目6番56号

樹高 22.0 m 幹回り 8.65 m

樹高 21.0 m 幹回り 6.58 m



山王神社のクスノキ

## 古賀のゴヨウマツ

江戸時代末期、ロシア極東艦隊が長崎を避寒地とし、稲佐はロシア軍人の上陸宿泊地として繁栄していました。軍の士官宿である福田邸の庭にこのゴヨウマツはありました。

1891（明治24）年には、ロシア皇太子（のちのニコライ皇帝）が日本訪問の旅で長崎に艦隊とともに入港し、福田士官宿を訪れています。

その後、日露戦争でロシアと長崎は50年の交流史を閉じましたが、長崎の国際交流の歴史を、このゴヨウマツは今に伝えていきます。被爆時には福田氏邸宅にありましたが、旭大橋の架橋工事に伴い、長崎市本原町に移され、2016年2月に福田雅明氏から長崎市へ寄贈されました。

現在は古賀地区の植木センター前庭にあります。樹冠下部から梢端部まで葉色が良く、枝枯れもなく樹勢は旺盛です。大枝先の切断部の傷の巻き込みは完了しており、適切な処置がなされ大切に守られてきたことがわかります。

所在地 長崎市古賀町松原町2624-2

長崎市植木センター内

樹高 2.6 m 幹回り 2.1 m



古賀のゴヨウマツ

(NPO法人地域循環研究所)

樹木医巨樹さるくは、県内各地の巨樹を日本樹木医会長崎県支部の解説とともに紹介していきます。

長崎の林業 7月号 第813号  
編集・発行 長崎県林政課  
住所：長崎県長崎市尾上町3番1号  
電話：095-895-2988  
ファクシミリ：095-895-2596  
メールアドレス：  
s07090@pref.nagasaki.lg.jp